

DATA FILE



名前	INESITE (イネサイト) / イネス石
化学組成	$\text{Ca}_2\text{Mn}_7\text{Si}_{10}\text{O}_{28}(\text{OH})_2 \cdot 5\text{H}_2\text{O}$
色	ピンク色、オレンジ色、褐色
光沢	ガラス光沢、絹糸光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	完全
断面	不規則
硬度	6
比重	3.0

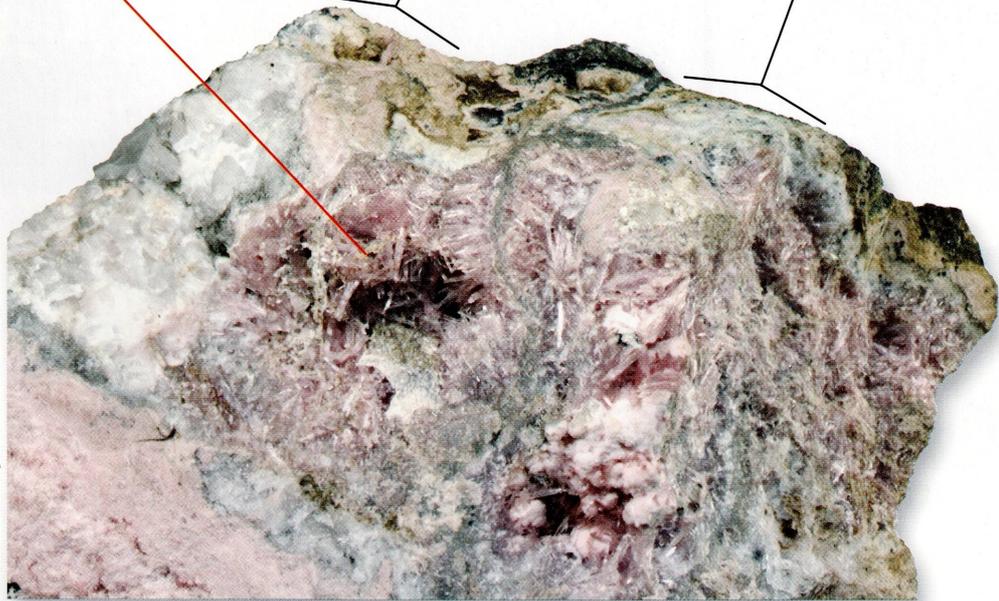
イネス石

INESITE

低温の熱水鉱脈中や、接触交代作用を受けたマンガン鉱床などで見られる。

ガラスのような光沢や絹糸に近い光沢を示す。

静岡県の河津鉱山で産出したイネス石。



劈開は完全で、ハンマーでたたくと不規則な断面を示す。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

石英、ばら輝石、菱マンガン鉱、ヨハンセン輝石などと共生する。



イ イ ネ ス 石

鉱物名は「肉色の繊維」

ドイツのディレンブルクにあるナンツェンバッハで初めて産出したイネス石は、結晶の色と繊維状に見える外観から「肉色の繊維」を意味するギリシャ語を語源として名づけられた。産出したばかりのイネス石はピンク色やオレンジ色だが、長時間大気にさらされると酸化によって褐色から黒色に変化してしまうので、真空密閉容器での保存が不可欠。なお、結晶は角柱状や卓面状のほか、針状結晶が放射状に集合した塊になることも多い。

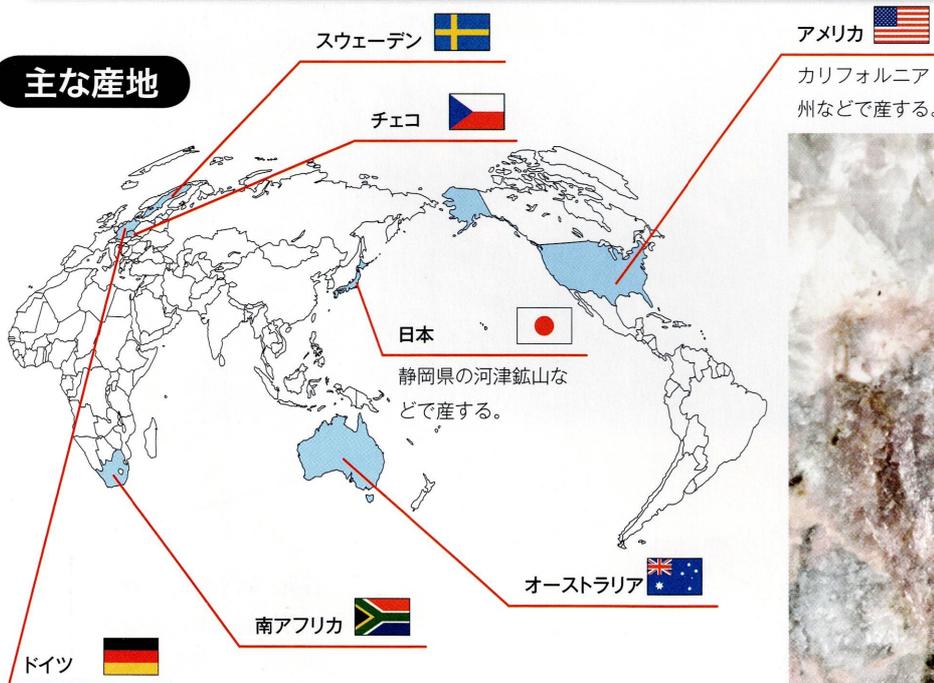
ばら輝石と石英に変化

イネス石は、カルシウムとマンガンの加水ケイ酸塩鉱物で、マンガンのケイ酸塩鉱物であるばら輝石 $[(Mn,Ca)_5Si_5O_{15}]$ は近縁の鉱物。イネス石を加熱すると、水分の蒸発によって、ばら輝石と石英に変化する。



◀ばら輝石に似た外観を持つイネス石の結晶集合体。

主な産地



▶静岡県の河津鉱山では、イネス石は低温の熱水鉱床からピンク色の柱状結晶集合体として産する。